

# 「生きる、を支える科学技術」を提唱

## 防災科学技術研究所の平成30年度成果報告会

ベルマーク財団の教育応援隊のひとつ、「防災科学教室」を共催している国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下、防災科研)が2月22日、東京国際フォーラムで平成30年度成果報告会を開きました。開会の挨拶で林春男理事長は、防災科研の理念と決意を示す言葉を新たに作ったことを初めて公開しました。それが「生きる、を支える科学技術」です。

「南海トラフ地震や首都直下型地震など国難ともいえる災害の発生が予測され、それらを地球温暖化、気象の極端化の中で乗り越えていかなければなりません」と林理事長。こうした現状を踏まえ、「これからの日本の防災はどうあるべきか、防災科研はどのような役割を果たすべきか」を1年かけて考えてきた結果なのだそうです。同時に防災科研のロゴマークも一新されました。

第1部では「平成30年の災害が教えてくれた教訓」として、5名の研究者がそれぞれ異なる分野の事例を講演しました。

昨冬から新潟県で活用が始まった「雪おろシグナル」、

草津白根山噴火で降灰調査を速報した事例などを伝える「水蒸気噴火研究のいま」、災害時に情報をひとつの地図にまとめる最新システムなど紹介した「災害時情報集約支援チーム(ISUT・アイサット)の取り組み」、昨夏の西日本豪雨から学んだ様々な事柄、北海道胆振東部地震の被災地を例にとった「生活再建支援連携体の活動」。それぞれ異なるアプローチで、防災科研の扱う事例の幅の広さが印象に残りました。

第2部では、舞台上「理科実験教室」などでおなじみのDr.ナダレンジャーこと納口恭明さんと助手のナダレンコこと罇優子さんが登場。この日は子どもではなく大人たちを、巧みな話術で巻き込んで、ブロックを使った地震の実験などを披露しました。

第3部はパネルディスカッション。防災科研の研究者、内閣府や時事通信社からのゲストがパネリストとなり議論を展開しました。スマートフォンのアプリを使って参加者も意見表明できる仕組みが取り入れられ、会場は大いに盛り上がりました。



④来場者も参加し、大いに盛り上がったパネルディスカッション  
⑤この日もナダレンコさんとDr.ナダレンジャーの息はぴったり

# 「被災地のため」と1カ月で1万点

## 東京・町田市立南第四小が友愛援助に寄付

災害の被災地の学校に役立ててもらおうと、東京都町田市立南第四小学校(宇田陽一校長、児童544人)では、1カ月弱で1万3403点のマークを集め、その全額をベルマーク財団の友愛援助に寄付しました。

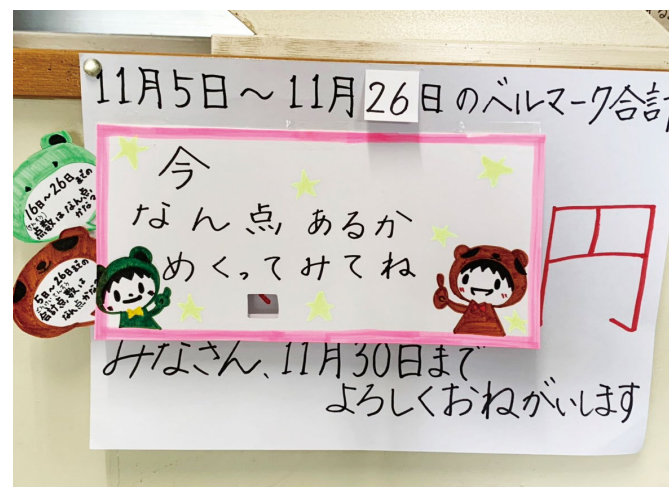
発案は、同小のベルマーク活動を担っているPTA校内部。昨年は豪雨や地震など自然災害が頻発したため、被災地の学校のために活動をと「ベルマークを集めると、ボランティア活動が出来る」との趣旨をかけた。昨年11月5日から30日までを期間に設定して、被災地の学校のためにマークを集める活動を始めました。

PTAのお知らせで1カ月前に保護者に呼びかけたほか、5日には宇田校長が全校朝会でこの活動をとりあげ、パワーポイントで「ベルマークでひさいちをおうえんしよう」の文字を映し出して児童に参加を呼びかけました。昇降口には協賛会社の番号ごとに分かれた回収箱

が並び、PTAや子どもたちによる手作りのベルマークポスターが貼りだされました。集まったマークの点数を公表する掲示板も作られました。

こうして全校が一丸となった取り組みが実って、結果として1万点を超すマークが集まりました。

校内部の山本智美さんは「多くのマークが集まったことは、とても意識が高く、素晴らしいことだと実感しました。学校や保護者の協力なしには成功できない事です。被災地へ目を向けるきっかけになり、目標に向けてみんなで活動することの大切さを学ぶことができました。我が校の想いがこもったベルマーク募金をよろしくおねがいします」と言います。同校の高橋伸嘉副校長は「PTAの方から色々アイデアを出して下さいました。この活動が、また来年以降につながっていったらいいですね」と話してくれました。



かわいらしく飾られた「今なん点あるかめくってみてね」

# あたたかなメッセージが届いています

## 北九州市立霧丘小学校から朝倉市へ

「朝倉市の方へ 明日へと 未来へと」と題し、87枚のメッセージカードが貼り付けられた大きな紙が財団に届きました。北九州市立霧丘小学校(陰平実校長、児童547人)が毎年、6年生に書いてもらっているメッセージです。過去には東日本大震災や熊本地震の被災地に向けたメッセージでしたが、昨年と今年は、同じ福岡県内で発生した九州北部豪雨の被災地・朝倉市の人たちを励ますメッセージです。

「1年たちましたが、元気になっていますか?」「今もずっと覚えているあの時の悲しみ」「私たちが力になれることがあれば一生けん命します」「もとどおりにもどるまで時間がかかるかもしれないけどがんばってください」……。今回のメッセージは、災害から時間が経ってもなお、被災者に優しく寄り添おうとする気持ちを表したものが多くみられました。霧が丘小学校は東日本大震災の後、集

めたベルマーク預金をすべて友愛援助に寄付し続けています。メッセージは、被災した朝倉市杷木地区の4つの小学校が統合して昨年4月に開校した杷木小学校に送りました。



## 福島から感謝のお花

ベルマーク財団に福島県いわき市立久之浜第二小学校からサイネリアの鉢植えが届きました。「子どもたちが苗から水やりして大切に育ててきたお花です」と山田弘校長。日頃の感謝の気持ちを込めて、お世話になっている人にお花を渡しているそうです。

同校は2018年度の支援対象校でした。浜から約5kmの距離のある同校は、東日本大震災後は児童数は半減し、現在21人が学校生活を送っています。

サイネリアは財団事務所で約1カ月、可憐な花を咲かせていました。



# 大台達成校

3月	千葉市花見川区	6,010,740
花園中	千葉市花見川区	6,010,740
美山小	愛知県豊田市	5,005,583
宮小	和歌山市	5,039,246
根城小	青森県八戸市	4,023,102
日枝小	横浜市南区	4,044,291
駒岡小	横浜市鶴見区	4,027,185
高倉中	神戸市須磨区	4,008,355
柏井小	千葉県市川市	3,020,113
栗田小	神奈川県横須賀市	3,014,496
楽田小	愛知県犬山市	3,004,355
千秋南小	愛知県一宮市	3,124,737
日進中	愛知県日進市	3,009,333
富士見小	大津市	3,008,891
野田小	大阪府豊中市	3,022,472
西灘小	神戸市灘区	3,027,708
米田西小	兵庫県高砂市	3,013,740
武山養護学校	神奈川県横須賀市	2,024,620
安原小	和歌山市	2,010,778
陵南小	岡山市北区	2,014,627
多津美中	岡山県倉敷市	2,001,681
矢本東小	宮城県東松島市	1,080,317
大野小	福島県会津若松市	1,018,791
竹間沢小	埼玉県三芳町	1,006,679
南小	埼玉県所沢市	1,030,182
都賀中	千葉市稲毛区	1,000,110
荒川中	新潟県村上市	1,002,239
竹の里小	京都市西京区	1,000,713
北大冠小	大阪府高槻市	1,003,635
マリア幼稚園	高松市	1,005,980